

金山弥平教授のご業績について

鈴木 真

金山先生は、京都大学大学院（哲学専攻）の時代から、プラトン哲学の泰斗藤澤令夫（敬称略）の指導の下、古代ギリシア哲学の研究を開始された。その後ブリティッシュ・カウンスルの奨学金を得て、ケンブリッジ大学古典学部で古代哲学の世界的権威 G.E.R.ロイドと M.F.バーニエットに学ばれた。

金山先生の研究の主な対象は、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、ヘレニズム哲学（ストア派、エピクロス派、懐疑派）であり、それはご業績にもよく表れている。先生は、バーニエットと同様、特に認識論、方法論への関心を強くもたれており、プラトンの感覚説、「仮設」法、ピュロン派懐疑主義に焦点をあてて研究を進められてきた。ただし、藤澤門下の古代哲学研究者・教育者らしく、金山先生のこの認識論・方法論への理論的関心の根底には、「よく生きる」ことへのソクラテス流の実践的関心がある。

金山先生は、古代ギリシアの言語と文化そして哲学についての深い知識に基づく原典テキストに密着した読解をとりわけ得意とされていた。たとえば、先生の初期の重要な業績の一つである、“Perceiving, Considering, and Attaining Being (*Theaetetus* 184-186)” (1987, *Oxford Studies in Ancient Philosophy*)では、『テアイテトス』の185b9-185e7を知覚/感覚 (“*aisthanesthai*”) についての記述として読んでいた従来の解釈をテキストの精読によって批判し、それを通じて新しい知覚/感覚の解釈、ひいてはなぜ知覚/感覚（に従った判断）が知識とはなりえないのかの説明が示されている。テキストの緻密な分析に基づいて文献学的に証拠づけられた独創的な解釈を提出される先生の議論を追っていくと、「悪魔は細部に宿る」という思いに打たれる。金山先生は、テキストの読解をおろそかにしてはいけなさと、ご業績を通じてもわれわれに諭してくださっているように見える。

金山先生の日本の哲学研究に対する大きなご貢献の一つは、卓越した読解能力と知的忍耐力を駆使して、多くの正確かつ理解しやすい翻訳を出してくださったことであ

る。特にヘレニズム哲学の方面においては、セクストス・エンペイリコスの『ピュロン主義哲学の概要』をはじめとする様々な原著の翻訳や、J・アナス、J・バーンズ『懐疑主義の方式—古代のテキストと現代の解釈—』やA・A・ロング『ヘレニズム哲学——ストア派、エピクロス派、懐疑派——』といった画期的な二次文献の翻訳を公刊された。このおかげで日本におけるヘレニズム哲学の研究が進み、ギリシア哲学を専門としない者でもその真価に触れることができるようになった。これらを読むと、翻訳・注釈というのは立派な研究なのだという先生のご信念が強く感じられる。

ヘレニズム哲学、特に古代懐疑主義についてのご論文も多いとはいえ、金山先生がずっと研究の中心に置かれていたのは知の巨人としてのプラトンの哲学であった。たとえば、下記の業績表には示されていないが、先生が2005年に京都大学に提出された博士学位論文は「プラトンにおける感覚と考察—『メノン』『パイドン』『テアイテトス』—」と題され、三つの契機となる著作に焦点を当てて、プラトンの認識論上の基本問題を分析し、真の意味における知識の成立条件を究明しようとするものである。このご論文にもみられるように、金山先生のプラトン解釈は、ソクラテスの思想との連続性を重くみて知的探究の「仮設」的で開かれた性格を強調し、感覚と区別されるどころの理性による言語的明示化を通じた推論と無知の自覚、さらには「善原因」「理性原因」にまで訴えた存在の説明によってこそ哲学知が成立しうる、という一貫した像を提示するものである。私のようにプラトンの認識論はア・プリオリな知的直観（見知り）に依拠する独断論的なものとみなしていた者にとって、金山先生の“Plato as a Wayfinder: To Know Meno, the Robbery Case and the Road to Larissa” (*JASCA*, 2011) で示されるようなむしろ整合的・可謬主義的な解釈は、衝撃的であり自分の無理解を反省させるものであった。

なお、金山先生のご関心はプラトンやアリストテレスを彷彿させるように多岐に及び、現代の心理学を参照して議論を展開されたり、東洋と古代ギリシアの哲学・科学を比較されたりといった、古代哲学の研究者という枠を超えるような冒険も積極的になさっていた。これは、古代科学を知悉し人類学に詳しかったロイドの影響もあるのかもしれない。しかし、やはり金山先生ご自身が深い専門的知識を持ちながらも既存の学問的枠組みに囚われることなく、天真爛漫な好奇心を発揮して虚心坦懐に問題に取り組まれたことを示すものだろう。

金山先生から学び、古代哲学の魅力に気付かされた学部生、大学院生は多い。私の

ように古代哲学には全く疎く、しかも気質上アリストテレスや原子論者の方に親近感を覚える者にも、プラトンの偉大さがわかるように辛抱強く教授していただいた。今後も金山先生が世に出された論文や翻訳を通じて、多くの人が古代哲学の奥深さに触れ知の探究へと誘われることだろう。

ご業績

著書 (分担執筆 1 の Introduction を除き全て執筆した章に関しては、単著)

1. Marcelo D. Boeri / Yasuhira Y. Kanayama / Jorge Mittelman (eds.), *Soul and Mind in Greek Thought. Psychological Issues in Plato and Aristotle* (3名の編集者の一人、第1章 Introduction (M.D. Boeri と共著), 第5章 Plato's Wax Tablet (単著)), Springer, 共著者: Marcelo D. Boeri, Yasuhira Y. Kanayama, Barbara Botter, Thomas C. Brickhouse and Nicholas D. Smith, Mariko Kanayama, Iván De los Ríos, Ivana Costa, Gabriela Rossi, Javier Echeñique, Jorge Mittelman, Manuel Correia, 2018年

2. Karyn Lai / Rick Benitez / Hyun Jin Kim (eds.), *Cultivating a Good Life in Early Chinese and Ancient Greek Philosophy: Perspectives and Reverberations* (第6章 Skepsis and Doubt: Ancient Greece and the East を担当), Bloomsbury, 共著者: Karyn Lai, Rick Benitez, Hyun Jin Kim, Lee Coulson, Wang Keping, Lisa Raphals, Barbara Hendrichske, Yasuhira Yahei Kanayama, Per Lind, Jesse Ciccotti, Lauren Pfister, Sophie Grace Chappell, Andre Fech, Will Buckingham, Poo Mu-chou, 2018年

3. 内山勝利 (編) 『プラトンを学ぶ人のために』 (III 思想、第4章イデアを担当) 世界思想社、共著者: 内山勝利、山口義久、丸橋裕、國方栄二、木下昌巳、高橋憲雄、朴一功、中畑正志、金山弥平、久保徹、瀬口昌久、山田道夫、須藤訓任、四日谷敬子、大草輝政、佐々木毅、伊藤邦武、2014年

4. 松澤和宏 (編) 『テキストの解釈学』 (文字の誕生、テキストの功罪、解釈と探求の道—プラトン『パイドロス』における書き物批判をとおして—) 水声社、共著者: 松澤和宏、金山弥平、平野克典、クレール・フォヴェルグ、重見晋也、戸松泉、井上隆史、小川正廣、大石和欣、鎌田隆行、釘貫亨、宮地朝子、佐藤彰一、加納修、古尾谷

知浩、池内敏、2012年

5. 中村靖子(編)『交響するコスモス』(上巻：人文学・自然科学篇：「環境からマクロコスモスへ」) 松籟社、共著者：中村靖子、戸田山和久、吉武純夫、金山弥平、宇澤達、大越翼、伊藤伸幸、畝部敏也、葉柳和則、鋤田慶、福井康雄、2010年

6. 内山勝利(編)『哲学の歴史第2巻 古代Ⅱ 帝国と賢者 地中海世界の叡智』(Ⅲ 古代懐疑主義を担当) 中央公論新社、共著者：秋山学、和泉ちえ、今井正浩、内山勝利、大草輝政、荻野弘之、金山弥平、神崎繁、國方栄二、小池澄夫、瀬口昌久、土屋睦廣、中畑正志、野町啓、丸橋裕、山口義久、2007年

7. 内山勝利/中畑正志(編)『イリソスのほitori—藤澤令夫先生献呈論文集—』世界思想社、共著者：山田道夫、木下昌巳、金山弥平、中川純男、瀬口昌久、吉田昌市、小池澄夫、久保徹、朴一功、山本千洋、脇條靖弘、高橋憲雄、國方栄二、丸橋裕、浅野檜英、中畑正志、内山勝利、三浦要、坂下浩司、浜岡剛、山口義久、2005年

8. 内山勝利/中川純男(編)『西洋哲学史〔古代・中世論〕フィロソフィアの源流と伝統』(第9章ヘレニズムの認識論) ミネルヴァ書房、共著者：内山勝利、山田道夫、小池澄夫、朴一功、中畑正志、中川純男、金山弥平、山口義久、松崎一平、今義博、飯塚知敬、大森正樹、上枝美典、川添信介、中村治、長倉久子、加藤雅人、渋谷克美、花井一典、山下一道、1996年

9. 松本仁助/岡道男/中務哲郎(編)『ギリシア文学を学ぶ人のために』(Ⅲ 散文、3 哲学を担当) 世界思想社、共著者：松本仁助、城江良和、橋本隆夫、内田次信、伊藤照夫、木曾明子、竹部琳昌、丹下和彦、中務哲郎、久保田忠利、大戸千之、根本英世、金山弥平、下田立行、岡道男、柳沼重剛、沓掛良彦、1991年

翻訳

1. J. アナス、J. バーンズ『古代懐疑主義入門—判断保留の十の方式—』 岩波書店、2015年

2. アリストテレス『天界について、生成と消滅について』(内『生成と消滅について』) 岩波書店(アリストテレス全集新版)、2013年

3. セクストス・エンペイリコス『学者たちへの論駁 3—自然学者たちへの論駁、倫理学者たちへの論駁—』京都大学学術出版会、共訳者：金山弥平、金山万里子、2010年
4. G.E.R. ロイド『古代の世界、現代の省察—ギリシアおよび中国の科学・文化への哲学的視座—』岩波書店、共訳者：川田殖、金山弥平、金山万里子、和泉ちえ、2009年
5. D. セドレー（編）『古代ギリシア・ローマの哲学』（ケンブリッジ・コンパニオン）京都大学学術出版会、共訳者：内山勝利、木下昌巳、山田道夫、鎌田雅年、金山弥平、坂下浩司、大草輝政、村上政治、國方栄二、木原志乃、和田利博、西尾浩二、2009年
6. セクストス・エンペイリコス『学者たちへの論駁 2—論理学者たちへの論駁—』京都大学学術出版会、共訳者：金山弥平、金山万里子、2006年
7. セクストス・エンペイリコス『学者たちへの論駁 1』京都大学学術出版会、共訳者：金山弥平、金山万里子、2004年
8. A. A. ロング『ヘレニズム哲学—ストア派、エピクロス派、懐疑派—』京都大学学術出版会、金山弥平、2003年
9. アンドリュウ・ベンジャミン「別の抽象、別の形—ヘーゲル、セザンヌ、リヒター—」『名古屋大学文学部研究論集』哲学 48（頁：19-33）、2002年
10. G.E.R. ロイド『後期ギリシア科学』法政大学出版局、共訳者：山野耕治、山口義久、金山弥平、2000年
11. セクストス・エンペイリコス『ピュロン主義哲学の概要』京都大学学術出版会、共訳者：金山弥平、金山万里子、1998年
12. 沼田裕之/川田殖（編）『東西比較は可能か。G.E.R. ロイドとの対話』（「ギリシアの哲学と科学が古代近東から受け継いだもの」共訳：金山弥平、金山万里子）ペディラヴィウム会、共著（訳）者：沼田裕之、G.E.R. ロイド、中山茂、吉田忠、金山弥平、金山万里子、川田殖、1994年
13. J. アナス、J. バーンズ『懐疑主義の方式—古代のテキストと現代の解釈—』岩波

書店、監修：藤沢令夫、訳：金山弥平、1990年

学術論文（全て単著）

1. 古代ギリシアの医学哲学—『古い医術について』とプラトンの hypothesis の方法—、『アリーナ』2019 特別号（佐々木力（編）「新しい科学の考え方を求めて—東アジア科学文化の未来—」中部大学国際会議報告集）風媒社（頁：161-169）、2020年
2. 共にあること、共に進むこと—プラトン『饗宴』と『プロタゴラス』—、『中部哲学会年報』50号（頁：45-67）、2019年
3. Socrates' Humaneness: What Socrates' Last Words Meant, *Frontiers of Philosophy in China*, vol.14（頁：111-132）、2019年
4. Love and Procreation in Plato's *Symposium* 206b-207a、『名古屋大学人文学研究論集』2号（頁：187-203）、2019年
5. ソクラテスからヘレニズム哲学にいたる「よく生きるための知」—道田論文と楠見論文と伊藤論文へのコメント—、『心理学評論』61巻（頁：295-300）、2019年
6. Plato on Activity and Passivity of Perception、『哲学フォーラム』名古屋大学哲学研究室、15号（頁：60-66）、2018年
7. Plato's Dream、『名古屋大学人文学研究論集』1号（頁：147-152）、2018年
8. The Birth of Philosophy as 哲學 (Tetsugaku) in Japan, *Tetsugaku: International Journal of the Philosophical Association of Japan*, vol.1（頁：169-183）、2017年
9. Approach to Time in Ancient Greek Philosophy, *Journal of the School of Letters*, Nagoya University, vol.13（頁：11-26）、2017年
10. プラトンの探求とイデア界の地勢、『臨床精神病理』37巻2号（頁：119-123）、2016年
11. Socrates' Last Words, G. Cornelli / R. Lopes (eds.), *XI Symposium Platonicum: Plato's Phaedo. Papers*, International Plato Society/Annablume Classica, São Paulo（頁：440-450）、2016年

12. Recollecting, Retelling and *Meletē* in Plato's *Symposium*. A New Reading of ἡ γὰρ ἀνδρὸς καὶ γυναικὸς συνουσία τόκος ἐστίν (206c5-6), Mauro Tulli / Michael Erler (eds.), *Plato in Symposium, Selected Papers from the Tenth Symposium Platonicum*, Academia Verlag (*International Plato Studies*, vol. 35) (頁 : 249-256), 2016 年
13. 懐疑 (スケプシス) の射程、『思想』1098 卷 (頁 : 2-6)、2015 年
14. Memory, Writing and Mnemonics in Ancient Greece, Yahei Kanayama / Malhar Kulkarni / Toshiya Unebe (eds.), *Proceedings of the International Symposium on Memory and Human Well Being: Interdisciplinary Perspectives* (held on 9 and 10 November 2014, at the Department of Humanities and Social Sciences, Indian Institute of Technology Bombay, India, in collaboration with Nagoya University, Japan, Scientific Research [B] 25284003) (頁 : 97-104), 2015 年
15. 幸福とは何か?—古代ギリシア哲学、とくにソクラテス、プラトンの視点から—、『中部哲学会年報』45 号 (頁 : 1-12)、2014 年
16. ソクラテスの最後の言葉、『西洋古典学研究』62 卷 (頁 : 24-38)、2014 年
17. Recognition, Concept Formation and Knowledge: Preliminary Consideration for the Theory of Recollection in Plato's *Phaedo*, *Journal of the School of Letters*, Nagoya University, vol.9 (頁 : 1-20), 2013 年
18. 探求のツールとしての映像と文字、『名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」 アニュアル 2012』(頁 : 104-107)、2013 年
19. ギリシア哲学における幸福、『心理学ワールド』60 号 (頁 : 17-20)、2013 年
20. Plato on the Problem of Written Texts, *Global COE Program International Conference Series (Proceedings of the 13th International Conference)*, *De l'herméneutique philosophique à l'herméneutique du texte* (頁 : 19-28), 2012 年
21. プラトンと書かれたテキストの問題、*Global COE Program International Conference Series (Proceedings of the 13th International Conference)*, *De l'herméneutique philosophique à l'herméneutique du texte* (哲学的解釈学からテキスト解釈学へ) (頁 : 131-141), 2012 年

22. 「よく行なうこと (eupragia)」から「無動揺 (ataraxia)」へ —幸福 (eudaimonia) と、認知的再評価、フロー、マインドフルネス—、『名古屋大学哲学論集』10号 (頁: 1-32)、2011年
23. Plato as a Wayfinder: To Know Meno, the Robbery Case and the Road to Larissa, *Japan Studies in Classical Antiquity (JASCA)*, vol.1 (頁: 63-88), 2011年
24. 哲学と幸福—ソクラテスの「哲学の勧め」とプラトンの高等教育、『名古屋高等教育研究』11号 (頁: 5-22)、2011年
25. Taxonomy of Plato's Wayfinding Enquiry, *HERSETEC*, vol.4 (頁: 1-21), 2010年
26. 古代哲学におけるスケプシス—考察から懐疑へ—、『東北哲学会年報』26巻 (頁: 77-92)、2010年
27. 古代における書くことと読むこと (納富報告へのコメント)、『西洋古典学研究』58巻 (頁: 112-114)、2010年
28. 満足できるFDに向けて—第34回POD年次大会に出席して—、『メタプティヒアカ』4号 (頁: 19-68)、2010年
29. アルファベットの発明とその影響—プラトン『パイドロス』解釈のための「覚え書」—, *HERSETEC*, vol.3 (頁: 59-83), 2009年
30. ヘレニズムと近現代の哲学を動かした波: 「オシツ・オサレツ」 (pushme-pullyou) 関係のなかの個人・社会・宇宙、『アルケー』(関西哲学会年報) no.17 (頁: 1-17)、2009年
31. What is It Like to Know Platonic Forms?: Knowing Meno, the Power of Dialogue, and the Cave and the Line, *Journal of the School of Letters*, Nagoya University, vol.5 (頁: 1-15), 2009年
32. 魂の向け変えとしての哲学教育 —confront される側から, confront する側へ向け—、『哲学教育を考える—名古屋哲学教育研究会の記録 (2008年5月~2009年3月)—』名古屋哲学教育研究会, FD・SDシリーズ2巻 (頁: 23-43)、2009年
33. 交響するコスモス、古代ギリシアの哲学の立場から—説明相互、種相互、および

- 物質における連続性の問題一、『言語表象と脳機能から見た環境生成のメカニズム』
(平成 18-19 年度科学研究費補助金(萌芽研究)成果報告書、研究代表者 中村靖子)
(頁:199-220)、2008 年
34. 心理的・社会的・宇宙的環境におけるコスモス(秩序)の構築—古代懐疑主義と
プラトン—、『言語表象と脳機能から見た環境生成のメカニズム』(平成 18-19 年度科学
研究費補助金(萌芽研究)成果報告書、研究代表者 中村靖子)(頁:433-444)、2008
年
35. プラトン対話篇における正と負の感情—プラトン感情論に向けて—、『哲学フォー
ラム』名古屋大学哲学研究室、5号(頁:25-34)、2008 年
36. プラトンとアルキュタス—正方形と立方体の倍積問題—、『哲学フォーラム』名
古屋大学哲学研究室、4号(頁:53-62)、2006 年
37. 想起の対象としての想起説—『メノン』と『パイドン』における想起説証明の位
置づけ—、『西洋古典学研究』54 卷(頁:1-13)、2006 年
38. メノンのパラドクス、想起、仮設法、根拠の推理とラリサへの道—古代ギリシア
における本格的認識論の始まり—、『哲学研究』580 卷(頁:59-83)、2005 年
39. 『パイドン』における「第二の航海」の方法と魂の不滅証明、『西洋古代におけ
る哲学・医学・数学・懐疑主義による仮設法使用の比較研究』(平成 14-16 年度科学
研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書)(頁:7-101)、2005 年
40. プラトン『パイドン』における *logoi* のなかでの探求、『名古屋大学哲学論集』6
号(頁:1-17)、2003 年
41. 知識と懐疑、古代と近現代—ソクラテスとヒュームが自らの心の内に観察したも
の—、『哲学』54 卷(頁:71-91)、2003 年
42. プラトン『国家』における三つの比喩と善の探求—506D8-E4 の解釈—、『名古屋
大学哲学論集』特別号卷(頁:43-64)、2000 年
43. The Methodology of the Second Voyage and the Proof of the Soul's Indestructibility in
Plato's *Phaedo*, *Oxford Studies in Ancient Philosophy*, vol.18(頁:41-100), 2000 年

44. プラトン自然学の始まり（下）—『パイドン』の内にアリストテレスが見たものと見過ごしたもの—、『名古屋大学文学部研究論集』哲学46（頁：81-103）、2000年
45. プラトン自然探求におけるイデア原因説と魂—『パイドン』からの出発—、『西洋哲学におけるイデアリズムの問題史的研究』（平成9-11年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書、研究代表者 黒積俊夫）（頁：45-78）、2000年
46. プラトン自然学の始まり（上）—『パイドン』の内にアリストテレスが見たものと見過ごしたもの—、『名古屋大学文学部研究論集』哲学45（頁：73-88）、1999年
47. 無知の自覚—ソクラテスの倫理と宗教—、『中部哲学会年報』30号（頁：105-120）、1998年
48. 懐疑主義に対する或る古代の批判—アリストクレス『哲学について』より—、『名古屋大学文学部研究論集』哲学43（頁：65-76）、1997年
49. エリスのピュロン資料集—その人と思想と伝承—、『セクストス・エンペイソコスにおける懐疑の諸形態』（平成7年度科学研究費補助金（一般研究（C））研究成果報告書）（頁：1-96）、1996年
50. ピュロン主義、経験主義、方法主義—ガレノス『入門者のために諸学派を論ずる』（序論および翻訳と訳註）—、『名古屋大学文学部研究論集』哲学42（頁：25-52）、1996年
51. 理性と古代懐疑主義—人間と非理性的なもの—、『アルケー』（関西哲学会年報）no.3（頁：138-150）、1995年
52. 理論と経験—古代医学における経験派の方法論—、『名古屋大学文学部研究論集』哲学41（頁：27-49）、1995年
53. 実体（ousia）探求におけるアリストテレスの照準—『形而上学』Z巻1章における《ti esti》の問い—、『名古屋大学文学部研究論集』哲学40（頁：1-34）、1994年
54. ピュロンにおける事物の無差別性—Eusebius, *Praeparatio evangelica* 14.18.1-4—、『西洋古典学研究』37巻（頁：56-66）、1989年
55. 古代懐疑主義をめぐって、『理想』642巻（頁：95-100）、1989年

56. Perceiving, Considering, and Attaining Being (*Theaetetus* 184-6), *Oxford Studies in Ancient Philosophy*, vol.5 (頁 : 29-81), 1987 年
57. アリストテレス *De Anima* に於けるプシューケー定義の意義、『関西哲学会紀要』17 冊 (頁 : 41-47)、1983 年
58. プラトンに於ける認識とその対象—思わくと〈線分の比喩〉に於けるディアノイアについて—、『古代哲学研究』13 号 (頁 : 1-12)、1981 年
59. 『パイドン』に於ける最後の魂の不死証明—魂の生についての—考察—、『古代哲学研究』11 号 (頁 : 16-24)、1979 年

研究発表等 (単独発表)

1. Socrates' Humaneness: What His Last Words Meant, 6th Nagoya Meta-Philosophy Workshop, 名古屋大学、2019 年、招待
2. 時間について考える、学びの杜、人文学探究講座、名古屋大学、2019 年、招待
3. ギリシャ哲学の立場から、日本マインドフルネス学会第 5 回大会「マインドフルネス : よく生きるための叡智と出会い」シンポジウム「東洋と西洋の出会い」、早稲田大学国際会議場、2018 年、招待
4. What is Left after Everything Else is Deprived: from Ancient Wisdom, UBIAS Intercontinental Academia Nagoya Workshop (Aging – Life, Culture, Civilization), 名古屋大学、2018 年、招待
5. 古代ギリシャの医学哲学 (Philosophy of Medicine in Ancient Greece)、中部大学国際会議「新しい科学の考え方をもとめて—東アジア科学文化の未来—」、2018 年、招待
6. What the Use of Writing Tablets Brought about in Greece: Ancient Models of Mind and Memory, The Fourth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World: Transmission and Organization of Knowledge in the Ancient Mediterranean World, 名古屋大学、2018 年、招待
7. ヘレニズム時代の哲学 (1) —幸福とは何か—ストア派の戦略、西田幾多郎記念哲

学館哲学講座、2018年、招待

8. ヘレニズム時代の哲学(2) —懐疑とは何か—感情を読むこと、西田幾多郎記念哲学館哲学講座、2018年、招待

9. プラトンが想起で意味したもの、中国人民大学、2018年、招待

10. Plato's Wax Tablet, 北京大学、2018年、招待

11. Socrates' Humaneness: What his Last Words Meant, International Conference: Comparing Virtues, Roles, Duties in early China and Graeco-Roman Antiquity, Renmin University, 2018年、招待

12. Plato's Wax Tablet or The Way to Approach Divine Knowledge, Studium Generale, 名古屋大学、2018年、招待

13. 古代ギリシアにおける右回り—時計回り、反時計回り?—、シンポジウム「人間と記憶」、名古屋大学、2017年、一般

14. Socrates' Last Words, XI SYMPOSIUM PLATONICUM; PLATO'S *PHAEDO*, University of Brasilia, 2016年、一般

15. Approach to Time in Ancient Greek Philosophy, UBIAS Intercontinental Academia Nagoya Workshop (On TIME), 名古屋大学、2016年、招待

16. Everlasting Inquiry in Ancient Greek Philosophy: Socrates, Plato and the Sceptics, Pursuit of Wisdom: Ancient Chinese and Greek Perspectives on Cultivation, University of New South Wales, 2016年、基調

17. Plato's Wax Tablet, Soul and Mind in Greek Thought: Psychological Issues in Plato and Aristotle, Universidad Alberto Hurtado, 2015年、招待

18. Plato's Exploration into Memory, Symposium on Memory, 嘉義国立中正大学、2015年、招待

19. プラトン、デモクリトス、プロタゴラス、古代哲学フォーラム第44回例会、京都大学、2015年、招待

20. Plato's Pursuit of Roads, A New Perspective on Plato and his Philosophical Methods: An

International Conference for Young Researchers, 京都大学、2015 年、基調

21. Memory, Writing and Mnemonics in Ancient Greece, International Symposium on Memory and Human Well Being: Interdisciplinary Perspectives, IIT Bombay, 2014 年、招待

22. Socrates' Last Words, The Berkeley Ancient Philosophy Workshop, University of California, Berkeley, 2014 年、招待

23. Socrates' Last Words, 公共性の規範理論研究部会、早稲田大学、2014 年、招待

24. Socrates' Last Words, The Classics and Ancient History Department Seminar, Sydney University, 2014 年、招待

25. ソクラテスの最後の言葉、日本西洋古典学会第 64 回大会、東京大学、2013 年、一般

26. Recollecting, Retelling and *Meletē* in Plato's *Symposium*. A New Reading of ἡ συνουσία τόκος ἐστίν (206C5-6), X SYMPOSIUM PLATONICUM; The *Symposium*, University of Pisa, 2013 年、一般

27. プラトンと書かれたテキストの問題、哲学的解釈学からテキスト解釈学へ、名古屋大学、2011 年、招待

28. プラトンにおけるイデア認識は、直知によるのか?、東北大学文学研究科講演、2011 年、招待

29. ヘレニズム・コスモポリタニズムの生物学的・心理学的バックグラウンド、「ギリシャ政治哲学の総括的研究」研究集会、首都大学東京、2010 年、招待

30. 死の思想：死をいかに捉えるか（ギリシャ哲学とキリスト教）、大河講座「ひとの大学」平成 22 年度 第 3 部・人の巻「我々はどこへ向かうのか」、名古屋大学、2010 年、招待

31. アメリカと日本における FD・SD の現状と課題 「POD 大会が与えてくれた最高のレッスン」、大学教育改革フォーラム in 東海 2010、名古屋大学、2010 年、招待

32. 古代哲学におけるスケプシスー考察から懐疑へー、東北哲学会第 59 回大会シンポジウム「懐疑主義の源流とその波及」、東北大学、2009 年、招待

33. 書くことと読むこと、日本西洋古典学会第 60 回大会、シンポジウム「文字の力」、一橋大学、2009 年、招待
34. ヘレニズムと近現代の哲学を動かした波—「オシツ・オサレツ」(pushme-pullyou) 関係のなかの個人・社会・宇宙—、課題研究発表「ヘレニズム哲学」、京都大学、2008 年、招待
35. 古代ギリシアの哲学の視点から、交響するコスモス—人類 5000 年の宇宙論—、名古屋大学、2007 年、招待
36. プラトンの想起、メタファー、似像、第 5 回 handai metaphysica 研究例会、大阪大学、2007 年、招待
37. 言語的・社会的・宇宙的環境の中での可塑的中枢の自己形成（あるいは崩壊）—現代テクノロジーの諸前提に対する、古代ギリシアおよびユダヤ・キリスト教の人間理解からの批判的アプローチ—、平成 18 年度科学研究費補助金「言語表象と脳機能から見た環境生成のメカニズム—生きられる空間の複相性をめぐって」研究会、名古屋大学、2006 年、招待
38. 想起の対象としての想起説—『メノン』と『パイドン』における想起説証明の位置づけ—、日本西洋古典学会第 56 回大会、東北大学、2005 年、一般
39. アリストテレス哲学の形成と展開「プラトン・アリストテレス・幾何学・懐疑主義における仮設使用の比較」、北海道大学文学研究科主催、PHILETH 共催シンポジウム「アリストテレス哲学の形成と展開」、北海道大学、2003 年、招待
40. 今、宗教を考える～ソクラテスの生と死～、国立東名古屋病院看護学校特別講演、2003 年、招待
41. プラトンのイデア論—その成立を促したもの—、名古屋大学哲学会例会、名古屋大学、2002 年、招待
42. ソクラテスを通して見た生と死、国立東名古屋病院看護学校特別講演、2001 年、招待
43. 生きるための哲学、国立東名古屋病院看護学校特別講演、2001 年、招待

44. 生きることと死ぬこと、国立東名古屋病院看護学校特別講義、1999年、招待
45. プラトンのプシューケー論「プラトン自然学における魂の役割—『パイドン』からの出発—」、ギリシャ哲学セミナー「プラトンのプシューケー論」、上智大学、1999年、招待
46. 死そして生を考える、熱田生涯学習センター講座講演、1999年、招待
47. 哲学と生き方、国立東名古屋病院看護学校特別講義、1998年、招待
48. 哲学における生と死、国立東名古屋病院看護学校特別講義、1997年、招待
49. 倫理にとって宗教は必要か「無知の自覚—ソクラテスの倫理と宗教—」、中部哲学会シンポジウム課題研究「倫理にとって宗教は必要か」、岐阜大学、1997年、招待
50. ソクラテス「第二の航海」における善原因の位置、イリソス会例会、京都大学、1997年、招待
51. 理性と古代懐疑主義—人間と非理性的なもの—、関西哲学会課題研究「理性」、福井大学、1994年、招待
52. ピュロンにおける事物の無差別性—Eusebius, *Praeparatio evangelica* 14.18.1-4—、日本西洋古典学会第39回大会、大坂大学、1988年、一般
53. アリストテレス *De Anima* に於けるプシューケー定義の意義、関西哲学会大会、大阪市立大学、1982年、一般
54. プラトンに於ける認識とその対象—思わくと〈線分の比喩〉に於けるディアノイアについて—、古代哲学会例会、京都大学、1981年、招待
55. 『パイドン』に於ける最後の魂の不死証明—魂の生についての—考察—、古代哲学会例会、京都大学、1979年、招待

その他の研究業績

1. 書評 Courtney Roby, *Technical Ekphrasis in Greek and Roman Science and Literature: The Written Machine between Alexandria and Rome*. Pp. ix + 336, Cambridge, 2016, 『西洋古

典学研究』67巻(頁:159-162)、2019年

2. 書評 J.バーネット『新装版 初期ギリシア哲学』以文社、Pp.24+547、『図書新聞』2015年

3. 書評 Heda Segvic, *From Protagoras to Aristotle: Essays in Ancient Moral Philosophy*, edited by Myles Burnyeat; with an introduction by Charles Brittain. Princeton, 2009, 『西洋古典学研究』59巻(頁:165-167)、2011年

4. 書評 K. Algra, J. Barnes, J. Mansfeld & M. Schofield (eds.), *The Cambridge History of Hellenistic Philosophy*. Pp.xix+916, Cambridge, 1999, 『西洋古典学研究』53巻(頁:170-173)、2005年

5. 書評 R.J. Hankinson, *The Sceptics*. Pp.viii+376, London, 1995, 『西洋古典学研究』45巻(頁:153-156)、1997年

6. 書評 Th. Ebert, *Dialektiker und frühe Stoiker bei Sextus Empiricus. Untersuchungen zur Entstehung der Aussagenlogik (Hypomnemata 95)*. Pp.347, Göttingen, 1991, 『西洋古典学研究』43巻(頁:152-155)、1995年

7. 書評 G. Vlastos, *Socrates, Ironist and Moral Philosopher*. Pp.x+334, Cambridge, 1991, 『西洋古典学研究』40巻(頁:138-141)、1992年

8. 書評 J. Annas and J. Barnes, *The Modes of Scepticism. Ancient Texts and Modern Interpretations*. Pp.vii+204, Cambridge, 1985, 『西洋古典学研究』35巻(頁:138-140)、1987年

9. 『岩波哲学・思想事典』(岩波書店)、ドグマティズムなど4項目、1998年

10. 『集英社世界文学事典』(集英社)、73項目、2002年

11. 『集英社世界文学大事典』全6巻(集英社)、プラトン、アリストテレス、ソクラテス、ソフィストなど126項目、1996-1998年

12. 古代哲学、個人授業で受けた論文指導、『BCJAの本—留学経験者が語る英国の学問と生活—』BCJA, 風人社(頁:179-183)、1998年

所属学会

- ・日本西洋古典学会 委員 (1995-現在)、編集委員 (2015-2020)、常任委員 (2007-2013、2016-現在)
- ・日本哲学会 編集委員 (1997-2001)、委員・編集委員 (2007-2011)、編集委員長 (2009-2011)、理事 (2011-2015)、評議員(2011-2019)
- ・関西哲学会 委員 (2004-現在)、編集委員 (2004-2010、2019-現在)
- ・中部哲学会 幹事 (1992-2003)、委員・編集委員 (2003-2017)、委員長 (2015-2017)
- ・名古屋大学哲学会 委員 (2001-2018)、委員長 (2008-2018)
- ・ギリシャ哲学セミナー運営委員 (2009-2015)

その他の委員会

- ・日本学術会議西洋古典学研究連絡委員会委員 (2000-2003)
- ・名古屋大学出版会 理事 (2007-現在)、理事長 (2016-現在)
- ・名古屋大学委員 (全学関係)
学生相談総合センター運営委員
学生生活委員会委員
教養教育院統括会議委員: 兼任 (2011.4-2017.3)、人文学部門長専任 (2017.4-2020.3)